リーディング大学院(MERIT)での５年間

大阪大学基礎工学研究科　　山田 昌彦

今回 MERIT Award を受賞するにあたって、研究面での活動以上にリーディング大学院(MERIT)における活動が評価されたと考えているので、それについて詳しく書いていきたい。MERIT の活動で最も印象に残っているのは、主に土曜日に行われたコロキウム１及び、コロキウム２の活動である。

コロキウム１では同期の学生たちが一人ずつ自分の研究について短い時間で口頭発表するというものであった。簡単に思えるかもしれないが、聴衆は物理学だけでなく物質科学のあらゆる分野から集まっているため全ての聴衆にわかるように説明するのが難しい。逆に聞く側も他分野に対する寛容さが試される場面もあり、異分野とのコミュニケーションがいかに難しいか痛感させられた。

一方のコロキウム２では、数人ずつのグループに分かれて独自の活動を行い、それについて発表するというグループワークに発展している。著者を含むグループでは東京大学のオープンキャンパスの場を借りて、高校生向けに物質科学の面白さを伝えるサイエンスコミュニケーションの活動を行った。こちらも演示実験をどうするか、実際のオープンキャンパスでどのように楽しんでもらうか、それをどのようにアウトプットとしてまとめるか四苦八苦があり、アカデミアの外とのコミュニケーションもまた一筋縄にはいかないことを思い知らされた経験であった。しかし、このような通常の研究活動では得られない体験が将来役に立つと信じて現在も研究を続けている。

コロキウムの他にも MERIT 特別講義や自主キャンプなどの企画が定期的に開かれ、MERIT で過ごした時間は充実したものであった。また、このような活動は同時に気分転換にもなるので、結果として平日の研究活動に集中する原動力になったようにも思う。研究面でも量子化学の知識を生かした物質設計を中心とする、自分の特徴を生かした研究が評価されたものと考えており、今後もよりいっそう学際的な研究に取り組む励みとなった。このような様々な活動が評価されたことをもって MERIT Award を受賞できたことを光栄に思う。

最後に、大学院の５年間様々な面でサポートいただいた押川先生、多田先生、および秘書の辻さんには大変お世話になりました。この場をお借りして感謝の意を申し上げます。